

# 健康通信

## 市民病院より

問合先 市民病院 ☎76-4131

### ◆お知らせ

#### 市民病院臨時嘱託職員募集



ここまで進歩した！

### 再発大腸がんの治療



▲外科部長 横山 裕之

#### 再発率は約17%

大腸がんの患者数は近年増加の一途をたどり、当院でも毎年150人程の方が手術を受けています。

大腸がんは根治切除ができれば治癒の見込める可能性の高い疾患ですが、ある一定の頻度で再発もします。その再発率は初回手術時の進行度（ステージ）にもよりますが、全体で約17%といわれています。再発臓器は肝臓や肺に多いといわれ、進行がんで手術をした患者さんの再発は80%以上が初回手術後3年以内であると報告されています。

#### 再発時の治療①切除

再発した場合の治療方針については、それが切除可能であれば切除するという原則があります。これは再発巣を切除することで治癒が見込めるためです。ただし切除可能かどうかは再発臓器や再発巣の個数、患者さんの状態など十分に精密検査をして慎重に判断しなければなりません。

#### 再発時の治療②化学療法

切除が不可能と判断した場合に全身化学療法（抗がん剤治療）を行います。この場合は手術と違い、残念ながら現時点ではがんを治癒させることはできません。抗がん剤治療の目的はがんの進行を遅らせ、症状のコントロールをし、生存期間を延長させることです。

#### 化学療法の進歩と治療効果

再発大腸がんの化学療法はこの10年で大きく進歩しました。

5-FUという系統の薬剤（点滴または内服）とエルプラットまたはイリノテカンという薬剤（点滴）を組み合わせた多剤併用療法が主流です。さらにアバスタチン、アービタックス、ベクティビックスといった分子標的薬というこれまでの抗がん剤とは作用機序の全く異なる薬

剤も併用することで治療効果の上乗せが認められています。

これまでは日本と欧米では保険適応のために使える薬剤に隔たりがありました。2010年から日本でも世界基準の治療が受けられるようになりました。さらにがんの遺伝子を調べて分子標的薬を選択したり、患者さんの遺伝子の形によってイリノテカンという薬剤の副作用の程度を予測することができるようになり、治療前に薬剤を選択して治療計画を立てることができる時代になりました（テーラーメイド治療）。

その治療効果は以前と比べて約2.5倍の生存期間の延長が認められていると報告されています。さらにはその治療効果によって初めに切除不可能と判断していたものが切除可能となって、手術を行うことで根治が得られる患者さんも増えてきました。

#### 術後の定期的な検査を

このように再発大腸がんの治療は目覚ましい進歩をとげていますので、術後の定期的な検査をしっかり受けて、再発してもあきらめず治療を受けていただきたいと思います。

#### ■嘱託職員（助産師・看護師）

勤務 月～金曜日午前8時30分～午後5時  
人員 3人程度  
月給 27万円

#### ■臨時職員（助産師・看護師）

勤務 月～金曜日午前8時30分～午後4時30分  
※時間は応相談

対象 助産師・看護師免許取得者  
人員 3人程度  
時給 1,500円

勤務開始日 4月1日(月)

申込・問合先 2月22日(金)（必着）

までに、履歴書（写真貼付、臨時嘱託いづれか記入）、資格免許証の写しを郵送または直接病院総務課（〒485-1852 住所不要 ☎76-4131）

※後日面接あり